

梓川地区 市長と住民の「こんだん会」報告レポート

梓川地区の「こんだん会」では、4つのテーマについて「こんだん」いただきました。梓川の将来に対する皆さんのあふれる思いはとどまるところを知らず、予定時間を大幅に延長しましたが、十分に発言できなかつた方が多く、大変申し訳なく思います。

せめて、ご発言のあった内容は全てお知らせしたいと思い少々長くなりましたが、以下のとおりご報告いたします。

1 趣 旨

梓川地区の10年後について考えよう！

まちづくり協議会が改訂を進めている「梓川地区まちづくり10年計画(改訂案)※」の内容を4つのテーマに分け、各テーマに取り組んでいる団体等の代表者から市長へ、活動状況と10年後の夢について元気な声を届けることを目的としました。

※ まちづくり10年計画は下記 URL または QR コードからご覧いただけます。

https://www.city.matsumoto.nagano.jp/uploaded/life/92423_288214_misc.pdf



2 日 時 令和4年9月15日(木) 午後6時～8時30分

3 場 所 梓川公民館 多目的会議室

4 参加人員 臥雲市長ほか27名(事前の出席依頼者16名、傍聴者5名、関係職員6名)

※ 事前の出席依頼の団体等(テーマ順)

松本市梓川新規就農支援里親の会
農業委員
農業経営者、農業青年
加工組合さくら
梓川少年スポーツ教室
梓川地区まちづくり協議会
健康づくり推進員
あずさっ子見守り隊
町会サロン等のボランティア
消防団
梓弓研究会



5 こんだんのテーマ

テーマ1 農業振興、地産地消推進について

～ 新しい農業の形、担い手育成、また女性が活躍できる環境づくりを進め地場産農畜産物の6次産業化の促進 ～

テーマ2 「梓川少年スポーツ教室」の取組み

～ 地区ぐるみで地区の子どもを育む、また今後の部活動の地域移行について～

テーマ3 全ての人にやさしいまちづくり

～ 高齢者等の生きがい・交流の場・健康づくり、子どもの見守り等、住民がお互いに支えあう絆づくり活動を通じて、災害にも強いまちへ～

テーマ4 歴史・文化の学習や伝承による生涯学習(「梓弓研究会」の取組み)

6 発言の要旨

☆テーマ1 農業振興、地産地消推進について

梓川地区は長年にわたり、農業を大切にしまちづくりを行ってきました。

昭和40～50年代、りんごのわい化栽培を全国に先駆けて始め、昭和59年には日本農林水産祭において農業最高の荣誉である「天皇杯」を受賞、名実ともに日本一のりんご産地となりました。

しかし、少子高齢化人口減少の中、担い手不足に危機感を募らせたりんご農家たちが、昨年度「松本市梓川新規就農支援里親の会」を発足しました。新規就農希望者がりんご農家として独立できるよう、技術指導はもちろん農地・住宅の情報提供、就農後の人生設計までを幅広くサポートする組織です。里親の会から、2名の方にお越しいただきました。

米作等の農家からは、農地集積・集約化による経営規模拡大、またIT技術等を駆使したスマート農業により農業振興を図っている方にお越しいただきました。

そうして生産された質の高い梓川産農産物を活かして、村時代から多くの女性たちが地域活動として、農産物の加工・販売、特産品の研究・開発に盛んに取り組んできました。松本市と合併後は「加工組合さくら」として、地場産農畜産物の6次産業化のため積極的に活動しており、2名の方にお越しいただきました。

【松本市梓川新規就農支援里親の会】(以下「里親の会」といいます。)

JAと行政のねじれが梓川の農業に影を落としている!

- ・ 少子高齢化人口減少の中、農業の担い手不足は深刻になりつつあり、地区のりんご農家たちが里親の会を発足させた。



- ・ 梓川地区は合併後、行政は松本市、農協はJAあづみ管内であることから、農業政策の面で様々な矛盾を生んでいる。

- ・ 同じ松本市でありながら梓川以外の地区はJA松本ハイランド管内で、以前からJAの出資が多いこともあり市とタイアップした農業支援策を手厚く受けることができる。

- ・ 一方JAあづみは本所が安曇野市のためそれが難しく、梓川地区の農業者への支援が乏しいという現状である。

- ・ 合併前から梓川のリんごは「安曇野りんご」のブランドで売り出している上、現在でもJAあづみのりんごの

5割は梓川産。

- ・ また、JAあづみのりんご農家640人中230人は梓川の人。230人の平均年齢は68歳でそのうち後継者がいる農家は3割。10年すればものすごい速さで荒廃農地が増加すると思われる。

<市長のコメント>

- ・ JAと行政のねじれが梓川地区の農業に大きな矛盾を生んでいることは認識している。例えば波田への支援はJA松本ハイランドが担っているところが大きいですが、梓川にはJAあづみからの支援がない。梓川だけ支援の形がへこんでいるという形である

から、JAの管轄に関わらず支援の水準を他地区と合わせなければならないと思う。へこんでいる部分を行政が上乘せすることの検討も視野に入れる必要がある。

- ・ また、「安曇野りんご」は、行政が松本市だといって「松本りんご」というわけにはいかない。梓川産のりんごのシェアが半分を占めているということは「安曇野りんご」は松本市が支えているとさえ言える。
- ・ 課題は色々多いが、支援策が梓川だけへこんでいる状態は何とか解決していかなくてはならない。

【里親の会】

定年後の新規就農者にも支援を！

- ・ 新規就農者支援を受けられるのは45歳ころまでのため、会社を定年退職した年齢だと支援を受けられない。農業が好きで、会社をやめた後せっかく始めても、何の支援がなく農業機械も買えない中、裸一貫で日々荒廃農地と格闘している人たちに対しても何らかの支援策を考えてもらいたい。
- ・ 農業は定年後、ある程度高齢者になっても続けられる。後継者不足は深刻だから、そういう人たちがわずかでも耕作してくれればとてもありがたい。社会全体として農業をやりたい人たちが増えていると思う。ぜひ支援を充実して欲しい。

<市長のコメント>

- ・ 波田の「こんだん会」でも、スイカ等の中長期的な後継者はもちろんだが短期的な労働力も不足しているため、全市的な仕組みを作って支援して欲しいという要望があった。新規就農支援に年齢制限を設けたのは、中長期的な後継者を育成する観点からの政策だと考えられるが、5年、10年という短期の耕作期間であっても農業をやりたい人ができるような、もう少し弾力的な政策を検討する必要があると思う。

【農業委員】

これ以上の耕作放棄を何としても阻止したい！

- ・ 市内の農地全7100haの内梓川地区が1050haで最多、約15%にあたる。ちなみに2位は波田で850ha。耕作面積も農業人口も西部地区は断トツに多い。
- ・ 何十年も前から専業農家は減少し続けており、さらに高齢化により農家自体が少なくなっている。私は農業法人として、耕作できなくなった人等の農地の耕作を請け負い大規模経営を行っているが、本日こちらにいらっしゃるもう一軒の大規模経営農家と合わせた2軒だけで、耕作面積は梓川全体の1割を占めるという実態である。
- ・ ところが、耕作面積は年々増えているにも関わらず売り上げは毎年下がり続けている。
- ・ 農地は農地として適正に利用すべきだと考える。農地が一度耕作放棄されると再生するために多大な労力が必要となる。りんご畑が耕作放棄されたら木を切るしかない。何とか耕作の継続により次世代につなげていきたい。

地域の特色に沿った農業振興を！

- ・ 市の農業政策はどういう方向を向いているのか大変気になる。市の農林業振興計

画を見ると梓川地域をどうするかということが一言も書いてない。地域により農業の形は様々であるから、地域ごとの形態に合わせてどのような支援をしていくかという、地域ごとの視点を持った振興計画が必要ではないか。

- ・ 国の施策がなかったら市単で行うとか、困っている人が何とかやっていける方法を考えるのが市の職員の仕事ではないか。それを怠っていたら市長が強く指導すべきだと思う。

地域の意見を聞いて圃場の再整備を！

- ・ 昭和40～50年代に構造改善がされてからすでに50年以上経ち、農地を延命していくのはかなり困難である。現在10～30アールの圃場を再整備により40～60アールにすることを希望する。国の補助事業（農地中間管理機構関連農地整備事業）があるのでそれを活用しない手はない。近隣の自治体でも活用事例がある。そのために地域の意見を聞きつつ、何らかの事業に着手していくべきだと思う。

<市長のコメント>

- ・ 農林業振興計画に地域の視点がないことは確かである。都市計画マスタープランには35地区ごとの計画があるからあってしかるべきだと思う。合併前の旧市の思考のままの農政であることは反省すべきことだと思う。梓川の農地は広大であるため、具体的な振興策を検討する必要がある。
- ・ 構造改善事業など、市が積極的に市民の声を聴いて、事業の優先順位を決めてアクションを起こすべきというご意見はごもっともである。改めてやるべきことをやれるように担当課と話をしたい。

【スマート農業を实践する農家】

今後ますます必要性が高まるスマート農業！

- ・ 毎年耕作面積が増える中、限られた時間と人員の中で出来る限り農業生産の効率を高めるため、GPS 機器等の IT 技術を活用した合理化を図っている。
- ・ 田植え機の場合、GPS の活用で圃場内の位置関係を制御（誤差はわずか2～3cm程度）できるため自動運転による田植えが可能で、運転中でも運転手が後部で苗つぎ作業をすることが出来る。これにより、稼働率が従来は15%程だったのが50%まで上がったという実感である。



- ・ トラクターの場合も同様に、GPS により、耕うんした場所の履歴がわかるため、代かきの2週目など水が濁った時、また夕方暗い時でも適切な場所を耕うんすることができ大変効率が良い。

- ・ コンバインの場合、収量計が装備されており圃場ごとの収量がわかるため、例えば各圃場の施肥量等を判断するための参考とすることができる。

- ・ 育苗ハウスの温度やCO²濃度の管理のため専用の機器を設置しており、スマホとの連携により、例えば一定温度を超えた場合にプッシュ通知が届き、すぐ現場へ向かって対処することが可能である。
- ・ 風速計と雨量計も専用の機器によりスマホと連携しているため、状況に応じた対応が可能である。
- ・ 紹介した大型機械は設備投資は高かったとしても従事者が少なくて済むため人件費がかなり節減できることは大きい。取組みの参考にしていただければと思う。

【加工組合さくら】

10年後も20年後も多くの人が楽しく働き続けられるために！

- ・ 農産物加工品の代表としてりんごジュースとかジャムなどと言われてきたが、そのような一般的な物では見向きもされないという雰囲気が強くなってきて、もっと違うアイテムの商品がないかという問合せが多い。そのようなニーズに合わせて色々な商品の開発に取り組んでいる。
- ・ 6次産業として支援の申請をし、審査会を経て認定されるまでが大変時間がかかる。もう少し簡潔に支援できる形にならないかと思う。やりたい人が簡単に手が届くような支援をして欲しい。
- ・ 10年後も20年後もさくらで働き続けたい。80歳を過ぎても。(拍手)

<市長のコメント>

- ・ さくらには市長になる前に伺ったことがある。女性たちが力強くご活躍されている姿には感銘を受ける。6次産業支援の申請、審査をもっと簡潔にスピーディーにというご意見はごもっとも。私も市役所内で、あらゆる分野でスピード感を持って事業実施するよう言っている。行政の公金の支出についても言えることだが、民間企業の資金の使い方と同じようにもっと速く、せめて手続きの時間短縮くらいはできないかと思う。そのために必要なプロセスを具体的に精査し、出来ることがあれば具体的に改善していこうと思う。



【加工組合さくら】

絶え間ない努力と女性パワーで地域を元気に！

- ・ 加工所と言えば古めかしく聞こえるが、加工所の活動を、女性パワーで邁進していきたい。そして、梓川にはさくらがあるんだと思ってもらえるようにしたい。常に新しい技術を研究して頑張りたい。
- ・ 米粉パンが一番人気で毎日焼き続けている。10年後も焼き続けたい。市は加工所に対してどんな期待をしているのか。

<市長のコメント>

- ・ 梓川村時代から独自に、特に女性の皆さんが主体的に取り組まれている加工所として、突出したブランドを目指すのではなく、地域の地産地消を大きな目的としていることは素晴らしいと思う。一定の付加価値を付け、地域の所得に貢献し、全市的に起業や雇用のモデルになっていくという意味で、さくらの可能性を感じている。

☆テーマ2 「梓川少年スポーツ教室」(以下「スポーツ教室」という。)の取組み

「梓川少年スポーツ教室」は、昭和47年、旧梓川村教育委員会が事務局となり発足しました。松本市と合併後は、村時代からの横のつながりを守りながら、行政に頼らず自主運営によるスポーツ教室(全17教室)の協議会に移行し現在に至ります。

年度当初の小・中学校の子どもたちに統一様式の申込書を配布して募集をかけ、子どもと指導者が一同に集まり「開講式」を開催する等の活動を、全教室が共同で行っています。

各指導者は、長年にわたりボランティアで関わり、技術以上に心身両面の成長を重んじたその指導姿勢から、多くのOB・OGが指導者を慕い、後継者として活動しています。

地区単位による協議会方式という面で市内の関係団体からも注目され、また中学の部活動で指導者が外部コーチを勤める教室があるなど、運動系部活動の地域移行に関しては、スムーズに進むのではないかと考えられます。指導者から3名の方にお越しいただきました。

【スポーツ教室】

部活の地域移行の受け皿へ。使用料等のさらなる減免を!

- ・ 長年活動を続けているが、村時代と比べると市からの支援は薄い。例えば施設使用料の減免はあったとしても照明代は減免がないので高い。何とか安くしてもらいたい。
- ・ 中学校の部活の地域移行ということが言われているが、既にスポーツ教室指導者が外部コーチとして指導に行っている。中学の先生方の負担が減る分、我々の負担は増えるという形なので、何らかの補助があればありがたい。
- ・ 村時代は教育委員会からの委嘱で手当もいただいた。教室の用具等への補助もあった。合併後は自主運営となり、会場使用料や照明代の費用がかかる他、会場の予約も必要となった。児童・生徒からの会費で運営しているので、使用料や照明代を安くしてもらえるとありがたい。
- ・ 施設予約に関して、梓川体育館は地区優先枠を設定していただいております、優先的に予約させてもらえてありがたい。

剣道は生涯の生きがい!

- ・ 子どもたちが剣道を学ぶことによって、我慢する力、集中力、判断力、協調性などが身についていくと思うので、少しでもその道に近づけるように続けていきたい。
- ・ 剣道は生涯スポーツでもあり、69歳で始めた人もいます。また、OBが父となり子どもと一緒に稽古を始めた人もいます。代々つながっていく喜びを噛みしめている。10年後の夢は、お互いに健康に剣道を楽しみながら未来へ向かって頑張っていくこと。

スポーツで培われた強く生きる力!

- ・ 若い頃からバスケットボールを続けてきて、その時に頑張ったことが、今でも人生の中で苦しい時の力になっている。今日お集まりの方の中にもOBがおり、元気に活躍されていることが本当に嬉しい。
- ・ 子どもたちには、困ったことや悩みがあったらいつでも戻ってきなさいと言っていることもあり、来てくれるのが嬉しい。OB・OGが父になり母になり、戻ってきてくれることも本当に嬉しい。
- ・ 農業についても思うところは多いが、梓川から外に出た後、また梓川に後継者として帰って来てもらわないと立ちいかなくなる。皆で考えていきたい問題だ。

<市長のコメント>

- ・ 来年度から中学部活が地域移行ということで、出来るところでは移行に向けて話し合いを進めている。梓川は地域全体でスポーツ教室に取り組んでいることから、スポーツ教室が主に担っていく形になると思う。
- ・ 今まで学校部活で費用がかからなかった部分が外部コーチ費用、参加費等の費用がかかってくる。国としてどこまで支援するか、市としてはどうしていくかということを考える必要がある。出来るだけスポーツに金をかけずにやりたいスポーツを出来ることが心身の健康にも寄与すると思う。
- ・ 梓川の取組みを参考にして、今までの部活よりもっと魅力的な、指導者と子どもの関係を築いて行って欲しいと思う。
- ・ 使用料等の減免についてご要望をいただいた。これから、部活の地域移行などにより新しい局面を迎えることになるが、その中で何をどう整理して、より良い方向に変えていくかということについて話し合いを進めながら模索していきたいと思う。
- ・ 私自身体育会系のため周りから行き過ぎないようにと言われるが、改めてスポーツの優先順位を高めていくようにしっかり取り組みたい。

☆テーマ3 全ての人にやさしいまちづくり

過去の甚大な災害の教訓として、ふだんから、お互い“顔の見える関係”が築かれていた地域ほど、多くの方の命が助けられたと言われています。“顔の見える関係”だからこそ、あの人は助けなくてはならない、あの人は一人では避難できない、ということを知っていたからこそ、助け合いが素早くできたのだと思われまます。

ふだん、もっとも身近な地域の共助団体である町会や、地域の厚生や学習を担う町内公民館、その他の主な団体で構成した梓川地区まちづくり協議会は、松本水輪花火大会・夏祭りや地区運動会といった地区行事を企画・運営し、お互いが顔の見える関係を築くために大きな役割を果たしています。まちづくり協議会からは2名の方にお越しいただきました。

その他、ボランティアにより、弱い立場に置かれがちで孤立しがちな人たち（高齢者や障がい者など）が気軽に集まり仲間づくりができる場として、町会サロンや町会健康教室などの企画・運営

を行う人たちや、学校通学時の子どもの見守り、あいさつ、声かけ等を行う人たち（「あずさっ子見守り隊」）による活動もなされ、地域福祉の増進に大きく寄与されています。3名の方にお越しいただきました。

また、消防団員が減少する中、地域の防災活動に積極的に取り組む消防団員や、また大学の防災士に関する授業をきっかけに自ら進んで消防団に入団した若者たち2名の元気な声をお聞きしました。

【まちづくり協議会】

地域の特色に応じた防災体制を！

- ・ 1つ目は防災について。梓川地区の指定避難所は8カ所で、主な公共施設が指定されている。実際の災害時に、各施設に何人避難できるか、要支援者はどこに避難するか、何家族が何日間生活できるか、災害規模によっては備蓄が何の役に立つだろうかと思う。感染症対策も必要となる。
- ・ 我が町会でも自主防災会で、毎年、避難所設置・運営訓練を実施している。梓川に架かる橋が崩れたら物資輸送ができなくなることが考えられる。できれば、川や地形を考慮した防災対策を検討して欲しい。

梓川をモデル地区としてデマンド交通を！

- ・ 2つ目は公共交通について。コミュニティバスの路線については、住民アンケートの結果を基に、交通結節点を新村駅から梓橋駅に変えることを提言したところ、その方向で変更いただくことになり感謝する。そこで、定時定路線の朝夕を除く日中の便を、デマンド交通にさせていただきたいと希望する。先日、塩尻市のデマンド交通「のるーと」を視察してきたが、素晴らしいシステムだと感じた。ぜひ、梓川をモデル地区として実現していただきたい。

中部縦貫道の法面を階段状にして花火の観客席に！

- ・ 3つ目は夢の話。波田と共催で松本水輪花火大会を行っているが、花火の観客席として利用できるように、現在建設中の中部縦貫道の法面を階段状にしていればと思う。

免許返納しても安心して住める公共交通を！

- ・ 昨年度、まち協と地域づくりセンターが共同で実施した公共交通に関する住民アンケートの8割に目を通した中で感じたことは、河岸段丘の上と下の往復がとても大変で、距離としてわずか100mでも坂があるため買い物にも行かれない、という声が多く聞かれた。今後免許を返納した時に、ここに住めるか不安だという声も多かった。交通施策は市街地とは大きく異なることを考慮して進めていただきたい。

<市長のコメント>

- ・ 1つ目の防災について。避難所の備蓄は、最初の2日間に対応できる量を想定しているが、ご要望のとおり、より近い場所に従来の施設以外の物資集積所などを考えていくべきだと思う。
- ・ 2つ目の公共交通について。コミュニティバスの見直しについては、35地区の

中でも積極的に提言いただき、路線を新村駅に行くのを梓橋駅に変えることとなった。なぜ新村駅だったかという松本市内だからと思う。来年4月から市の公共交通が大きく変わるが、梓川地区の人がアンケートを行い、具体的にこうして欲しいと提案してもらったことは大きかった。

- わずか100mの距離でも坂があれば高齢者にとっては大変だというご意見ごもともである。デマンド交通についてモデル地区にというお話があったが、来年度、全市が国交省のモデル事業に採択される見込みである。市の中でいち早く手を挙げてくれた梓川に対しては、優先順位を第一にと考えている。
- 3つ目の、中部縦貫道の法面を階段にということについては、とても良いアイデアだと思う。国の事業に対してどこまで提案できるか未知数だが、建設部に対して、国が魅力と合理性を理解できるような企画書を作ることを指示したいと思う。

【町会サロン等のボランティア】

老若男女が気軽に集まれるサロンから顔の見える関係へ！

- 町会で昨年から、住民の防災意識を啓発するために危機管理課の出前講座を受けるなどして、隣組ごとのハザードマップを作成できた。その後の段階として要支援者を支援できるための支え合いマップを作りたいが個人情報に壁となっている。
- 町会サロンに来る人は60～70歳代の人が多いが、子どもも是非来てもらえるサロンにしたいと思う。子どもを中心として地域があり、周りの大人が支え見守る、支え合いは一方的なものではなく、子どもも高齢者も皆で自分ができることをやることだと思う。サロンから顔の見える関係を広げていき、防災にも活かしていきたいと思う。



出前ふれ健、百歳体操で地域の居場所づくり&健康づくり！

- コロナの影響で健康づくり推進員が主催する研修会が思うように実施できなかった。出前ふれあい健康教室も、昨年度は数カ所のみの実施だったが今年度は若干増えつつある。
- 出前ふれ健の中でフレイル予防のための「百歳体操」を体験してもらったところ好評で、何回も続けてやりたいという声が多かったので、農閑期の12月から始める予定。
- このような機会が居場所づくり、健康づくりにつながればと思う。健康づくり推進員になって福祉ひろばの存在を身近に知ることができ、ふれあい健康教室は毎月楽しい企画なので、地域の多くの人たちに声がけしたいし、自分も積極的に参加して健康づくりに役立てたい。

【あずさっ子見守り隊&百歳体操】

子どもたちから元気をもらいながら健康づくり!



・ あずさっ子見守り隊の活動は、自身の健康づくりのためのウォーキングも兼ねて9年間続けている。水路など危険箇所も多くあるので特に注意している。登校時の子どもたちと歩くのはとても楽しいし、元気をもらっている。私の生きがいになっている。より多くの目で見守りができるように、多くの方に健康づくりを兼ねて参加していただきたいと思う。

男たちよ、ひろばへ集え!

- ・ ひろば事業として、週2～3回ウォーキングの会や、百歳体操、スポーツ吹き矢、男の運動ひろばといった運動系の事業に参加している。健康維持、フレイル予防、交流を図れる通いの場として大変ありがたい。特に男性にはもっとひろば事業に参加して欲しいと思う。



「男の運動ひろば」ではウォーキング、体操の他、料理、コーヒー焙煎なども楽しめます!

<市長のコメント>

- ・ あずさっ子見守り隊のように、子どもとふれあい向き合うことは、高齢者と接する機会が少なくなった子どもにとっても改めて貴重な機会だと思う。
- ・ 公民館や福祉ひろば 子どもやファミリーがもっと来たくなるようなプログラムの工夫をぜひ進めてもらいたい。里山辺の「こんだん会」の時、中学生からの放課後勉強する場所がないという声に対して公民館があると地区の人が言ったら、公民館って何?どこにある?という反応だった。
- ・ 年配の方の多くは、公民館は子どもの使う場所ではないという意識が強い。公民館は、建物としても、ソフトとしても地域の財産であるから、ぜひ子ども、中・高生から高齢者までの多世代が交流する場として欲しい。そのためにこれが必要だと思う

ものやことがあれば、市に対して声を上げていただきたい。

【消防団員】

地域に貢献できることの充実感！来年こそ大会出場！

- ・ 消防団員として6年目。月2回の地域内の巡回や、防火水槽の清掃、訓練等を行っている。コロナの影響でなかなかフルに活動できていないが、分団長を中心に頻繁に連絡を取り合い、現況報告等をしているという現状。来年は、ポンプ操法大会に参加予定であり、チームワークと技術を高めていきたいと思う。



一人でできることは限られているから地域みんなで助け合い！

- ・ 消防団に入団した理由は、大学の防災士の授業を聴いて、初めは自然災害から自分の身を守ればと思ったが、自分一人でできることは限られているからこそ地域みんなで助け合うことが重要だと学んだ。地域防災の要としての消防団を知り、地域のために何かできたらという思いで入団に至った。
- ・ 入団したのは今年の7月だが、先輩の皆さんが温かく受け入れてくれ、地域の一員として自分も力になれているという充実感がありとても嬉しく思う。
- ・ 梓川地区の防災体制についてしっかり学び、地域のために自分の役割を果たしていきたい。

<市長のコメント>

- ・ 消防団の若者離れにより団員数が減少している理由の一つとして、ポンプ操法の訓練等で日曜日まで駆り出されることが多く大変だというイメージがあると思う。
- ・ 昔からのしきたりで引き継がれてきたことでも整理できることは整理し、必要以上に巻き込まれているようなら見直していただきたいと提案しているがまだ実現していない。
- ・ いわゆる“飲み会文化”も原因の一つか。飲むのが楽しい人は良いがそうでない人もいる。女性が入団するのはハードルが高いと思うが、女性団員がもっと増えれば文化が変わっていくのではないか。
- ・ 本日お越しの二人はいわゆるZ世代だが、私たちがその年代だった頃に比べて公共的意識が高い。私たちの学生時代はバブル期で、社会のことを考える雰囲気は全くな^{はばか}く、社会公共について話をするのも憚られる世代だった。
- ・ 今の若い人たちは、気候変動等、社会の諸課題に関して20～30年先を見据えた問題意識を持っていると感じる。若い人たちが古いしきたりを敬遠してしまうなら

上の世代が変えていかねばならない。

- ・ そうはいつでも消防団は、良い意味で20代、30代の横のつながりや仲間づくりができる場。お二人とも友達の輪を広げて、もっとこうしませんかという声を遠慮なく上げて行って欲しいと思う。頑張って！

☆テーマ4 歴史・文化の学習や伝承による生涯学習（「梓弓研究会」の取組み）

「梓弓研究会」は、梓川アカデミア館主催の学習会からスタートし、平成31年1月から自主的な学習団体として独自の活動を開始しました。毎月1回以上、梓の木の植生や由緒、歴史等の学習会を開催し、「梓弓かわらばん」を毎月発行し、学習成果の地域への発信を続けています。

なお、「梓弓」は、梓の木から作られた弓で、しなやかで強い上等品として重宝され、『続日本紀』によると、西暦702年信濃国から大宰府へ1,020張、704年に1,400張、『三代実録』には西暦878年に200張送られた等の記述があります。

「梓川」という名称は古代からあることがわかっています。梓弓と何らかの関連があると考えられていることもあり、会員は歴史の謎をひも解くべく学習を重ねています。

この日は、研究会から代表してお一人の方にお越しいただき、梓弓以外の、地域に眠る、すぐれた、隠れた文化財についてのお話を伺いました。

【梓弓研究会】

- ・ 梓弓研究会は、梓弓をはじめ周辺地域の歴史や文化財などの調査、研究、発表、普及の活動をしている。こんだん会にあたって何人かの人から情報をいただき、本日は2つのことをお願いしたい。

城山公園の発掘調査を！

- ・ 城山公園内に、前方後円墳の可能性が極めて高い場所があるので、発掘調査をお願いしたい。今年5月13日(金)の信毎にこの件の記事が掲載された。もし、古墳なら弘法山よりも後の時代のものということになる。学術的にも価値が高いので、是非お願いしたい。

日本に2台しかないスタインウェイのピアノが梓川に！

- ・ 梓川小学校の音楽室にスタインウェイのピアノがあるので、指定文化財に指定いただきたい。このピアノは、大正時代、旧倭村の篤志家たちがお金を出し合い、旧倭小学校に寄贈したもので、昭和60年、一度修理に出した時、日本には2台しかないピアノの一つで、大変貴重なものであることがわかった。(もう1台は東京芸術大学)



- ・ 当研究会では、随時会員を募集しているので、歴史・文化に興味ある人がいれば是非お声がけをお願いしたい。

<市長のコメント>

- ・ 城山公園は、私の通っていた丸ノ内中学校の近くで馴染みがある場所。ご発言の内容を文化財課に伝えたい。
- ・ スタインウェイのピアノは現役で使われているとのことだが、文化財になっても使えるのかという疑問もあるので担当課に確認したい。日本に2つしかないピアノの一つが梓川にあるということに大変驚いた。これからも大切にしていっていただきたい。

☆ まとめ <市長のコメント>

- ・ 農業と女性の支援のあり方について、改めて最前線で活躍されている皆さんから様々な要望をいただいた。明日直ちに担当とディスカッションしたい。
- ・ 少年スポーツ教室や、地域を支える活動をされている皆さんからのお話を聞いて、その活動を、今後どう広げつなげていくかということについて改めて考えさせていただいた。
- ・ 消防団の若い二人にはこの機会によく参加いただき大変ありがたく思う。
- ・ こんだん会は当地区で11カ所目だが、世代、分野ともに幅広い皆さんにお集まりいただき、貴重な時間を過ごさせていただいた。
- ・ 合併前とは様々な前提条件が違うため、旧村時代のあり方そのままというわけにはいかないが、私としては地域拠点強化や市役所の分散化を進めたいと考えている。もう一度35の地区、昔の村や地域の単位に立ち返って、それぞれの良さ、魅力をふまえて、どのように課題解決に導いていくのかということが改めて必要だと感じている。
- ・ 梓川に帰って来て欲しいという声が聞かれたが、どこの地区の人も同じ。帰って来るだけでなくIターン、つまりその地域に魅力を感じて入って来る新しい人たちも受け入れて、昔からの伝統の良さを、さらに新しい人たちとともに高めていっていただきたい。
- ・ その支え合いを、皆さんの求めていることに応えながら支える役割を果たすことが私の仕事だと思う。今日のお話を聴いて、少しでも梓川が前に進んだと思えるように取組んでいきたい。引き続きよろしく申し上げます。